| 第12回 高原地区街づくり協議会　議事録 | |
|---|---|
| 開催日時 | 平成30年10月４日（木）18：30～20：10 |
| 開催場所 | 福住公民館　大会議室 |
| 出席委員 | 12名 |
| 欠席委員 | 内田委員、前嶋委員、井田委員、植村委員 |
| 事務局 | 藤本理事、岡本公室長、岩田課長、岡島係長、藤田主査<br>（関係課）まなび推進課・高山課長、農林課・村井課長、色雲係長 |

議事内容

**１．開　会　－18：30－**

**２．市長挨拶**

この高原の街づくり協議会も第12回ということで、皆様方日中のお疲れもあろうことかと思いますが、お忙しい中ご参集いただき誠にありがとうございます。今年は災害続きで、幸いにしてこの間高原地区では大きな被害が発生したということはございませんが、先般の台風24号の際も台風が来る前の倒木で停電などがございました。そういった中でも地域の絆づくり、活性化といったことを進めて頂いておりまして、この間観月会にお招きいただいたのをはじめ、今年は長滝の皆さんの交流事業であったり、奈良国際映画祭の事業であったり、また、山田の稲刈り体験、氷まつりと様々な事業が進められてきております。その中で学校の取組であったり、買い物支援であったりという生活の部分に係る事業が出てまいりました。これまでは活性化の部分が協議会の主流事業となっていた印象があるかと思いますが、他地域においても地域のみなさまの暮らしをいかにして支えていくかという部分にも軸足を移しつつあります。また、皆様にはそういった点からも本日もいろいろなご指摘を頂ければと存じますので、どうぞ深長なご審議を願いまして、冒頭のあいさつに代えさせて頂きます。

**３．議　事**

**(1) 教育・子育て等に関する事業について**

**〇小規模特認校制度**

**会　長**

今日の議論を進めていくにあたって少し前後するが、Ａ３の資料の方にこれまで進めて頂いている事業、これから進めていく予定の事業というものを分野問わずまとめている。こちらのほうも時折ご参照いただきながら進めて頂ければと思う。

最初の議題、小規模特認校制度は地域の皆様からも大変なご助力をいただいて続けているところだが、まずこの現状について事務局、まなび推進課からよろしくお願いします。

事務局

平成29年度から天理市内全域から福住へ通学することができる小規模特認校制度を実施させていただいている。これは学校の特色を理解し、小規模な学校で学びたい、子どもを学ばせたいという希望者に対して、現在の住所のまま小規模特認校として指定された学校、天理市の場合は福住小学校に編入学することができる制度。福住小学校の生徒数が非常に少なくなってきている中、この制度を活用しながら複式学級の解消を図っている。これは福住校区の皆様のご理解とご支援があったからこそ実施することができたと感謝申し上げます。

平成29年度は８名の児童が入学、平成30年度は４名、合計12名の児童が現在通っている。学年の内訳は１年生が２名、２年生が３名、４年生が５名、５年生が２名。子どもたちは天理駅を７時40分に出発する山辺高校行のバスに乗って福住のバス停で下車し、見守り隊のみなさんに付き添われて学校まで歩いて通っている。小学校の先生からの報告によりますと、ほぼみなさん元気に登校してくれていると聞く。今年度は募集チラシととおり10月30日に学校見学会と説明会を計画している。なお、現在までの問い合わせは４名。その後のスケジュールについては11月中に申請をしていただき、12月中に認定をしていきたいと考えている。

会　長

ありがとうございます。もう２年目に入り、現在42名中12名の子どもたちがこのコスモス分団として通学をしてくれている。今日、校区区長会長様が市役所にお越しいただいた際に議論をさせていただいたところだが、現状福住校区のお子様が30名、早晩20人台になっていくことも懸念される中、コスモス分団がなければ場合によっては統廃合というようなことも県から言われたかもしれない。それが今、皆様に支えて頂き40人台を維持していることによって、複式学級を解消して学校運営ができている。私どもとしては福住校区のお子様方にとってもこの事業というのは非常に重要なものだと考えている。学校を何とか持続可能な形で運営していき、またそこに移住促進というところとも合わせて進めていきたいと思っている。

課題としては国道福住のバス停からの移動について、予算の制約もあり、一番合理的な既存のバス路線の利用を採用しているので、バス停から歩いてくるというハードルになっている。今後コミバスの再編等も併せいろいろなことを考えながら改善の余地を検討し、地域に根付くようにやっていきたいと思っている。

この機会ですので、平素皆様お気づきの点やご要望、こうしたらもっといいのではないかというようなご意見がございましたら是非お伺いしたいと思う。

委　員

コスモス分団の子どもたちは、朝７時半天理駅発山辺高校行の２台のバスの先頭のバスに乗せてもらって福住までやってくる。インターから地域の方に付き添ってもらって学校に来る頃には３分から15分くらい遅れることがあるということで、授業時間が圧迫されている。なん

とかできないかということで校長先生とＰＴＡ会長さんとも協議して、奈良交通の２台あるバスの先頭の車をインターから降りて農協や小学校まで走らせてもらえないかという要望を出させてもらった。そういったバスの路線変更は奈良交通の方も、山辺高校・県教委の方の関係もあり難しいことだと聞いているが、通学の補助のお金で地域の方に送迎の運転手をしてもらうとか、何か対策できないかと模索している。みなさんにもいい方法がないか、考えてもらいたいなと思う。

会　長

今の議論は次の公共交通の議題にも絡むもののため、事務局からまず説明を。

〇公共交通について

事務局

今お話を聞かせて頂いた中であったように、バスの利用により小規模特認校の方が困っておられる、学校の方も遅刻という形になるので大変だということだが、バスは小学校だけでなく、山辺高校生など他の利用者さんも乗っておられる。もし動かすとなればそうした方への配慮も必要となってくる。経路が変わって天理駅 32 分発のバスの時間が変わるとなると、電車との乗り継ぎも関わってくる。ＪＲ線は１本電車が違えば 30 分時間が変わってくる。そうしたいろいろなことを考慮に入れてこれから進んでいかなければならない。

それに関連するのが続いての議題ということで、併せてご説明します。高原地区だけでなく天理市、そして全国的な話だが、2015 年の国勢調査では福住校区の高齢化率が 40%を超え、市全体の 25%と比べても市域の中で高い高齢化率となっている。現在はまだお元気な方が多く自分で運転されているかと思うが、今後の５年 10 年でそれが立ち行かなくなっていくという現状が目の前に出ている。これをどうしたらいいかというのは、市長を含め市も考えているところ。路線バスの運行回数も平日２往復となっているので、これを利用して買い物・病院に行くというのはなかなか時間が合わないということもある。コミバスも使いづらいというお声もあり、今後福住校区について、どのようにして公共交通を回していったらいいのかということ、デマンドのタクシーを増やしてバスを増便すればいいかといえば、市の予算もひっ迫しているので、そういった対応は困難という状況の中、何とか住民の皆さんのご協力を得て、例えば資料にあるようなＮＰＯ団体を地域で立ち上げていただき、地域内を循環するバスを運行していただくという形で、それと公共交通と結節して利用しやすい乗り物として使っていただくというやり方もある。ほかにもライドシェアといって、誰かが市街地に下りられる際に一緒に乗せてもらうという相乗りの制度もある。今現在は地域で知り合いの車に乗せてもらって下まで降りるということもやっていただいていると思うが、なかなかそういうのも減ってきている。そうしたやり方を制度的に確立したものを利用して運行していくというのも一部の地域ではやっている。ただ、それが福住校区にぴたりとはまるかどうかというのはまた検証が必要だろう

と思っている。今後年度内にどういうものが福住に合う公共交通のやり方であるか、また、予算的にもどういう風になるか、すべて含めて一番いい方法を探っていきたいと思う。委員の皆様方におかれましても、これはこうした方がいいのではないかとか、こうできるのではないかとか、自分はこんなことができるといったご意見があればぜひ出していただいて、検討の上での参考にさせて頂きたいと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。

会　長

ありがとうございます。冒頭に仰っていただいたご提案の点については、今事務局から説明があった通り、他のバス利用者さまのご理解がどこまで得られるかということを含めて協議をしていかなければならない。公共交通は全体的に校区でタウンミーティングをさせて頂いても非常に皆様のご関心が強いところで、全自動運転技術がいろいろと発達しない限り今後の校区の最大の課題の一つだろうと認識している。コミバスも単体で運行しますと年間1,000万以上はかかってしまい、いまコスモス分団の子どもたちが通っているバス通学の補助から一桁金額が変わるというという形になるので、そこだけで捉えて見るというよりは地域の交通全体のあり方を見直していく上で、次回協議会の際にはこういった選択肢があるのではないかということを提示して議論をさせて頂きたいと思っている。今北海道等で、病院に行くにも２～３時間かかるというところでライドシェアをされている事例もある。これは白タクではなく、お互いの支えあいの中での乗り合いを制度化したもので、近畿の山間に新興住宅で作られて急速に高齢化が進んでいるところでは、地元主導で協議会を作っていただき運行実験をしているような事例もある。こちらもどういったことが可能かということを検討していきたいので、ぜひまたご知見をお借りできればと思う。

委　員

先ほどご意見があったように、やはり公共機関を通じてというのはなかなか時間が必要だと思うし、福住地域自身が立ち上がってＮＰＯ等を立ち上げて、地元で通学や買い物難民への救済措置として地元から立ち上げるようなことも考える必要があるのではないかと思う。都祁のほうでもそういう有償送迎車というのをやっているのを見かけて、こういうのは全国でやっておられると思うが、福住でもそういったものが必要になってきているのではないか。高齢者の運転免許の更新もなかなか難しくなってきており、私の近くでも免許証を取り上げられたといったような方もいらっしゃって、これは何とかしないといけないなというように思っている。

会　長

大変貴重なご意見をありがとうございます。共助と公助を組み合わせるような形なのではないかと考えている。今日お越しいただいた際にもＰＴＡの会長様から地域に運転経験がある人材がいないかといった込み入ったお話もさせていただいていて、こちらの方でもいろいろな選

択肢を考えていく中で、区長会長様はじめそういった地元主導の形があるのだろうか、保険や車両の提供などはどうするのだろうか、どこまで役所が汗をかけば運営していけるだろうか、そういった点を含めて議論していければと思う。なかなか役所だけが全部予算で解決をすることになれば、生活を支えるだけのきめ細やかさで運行していくのは相当ハードルも高いと思っている。今のような非常に貴重なご意見も頂きましたので、この点は継続的に議論をさせて頂ければと思う。よろしくお願いします。

**○高原地域振興館条例の制定について**

それでは次の議題に移らせていただきたい。今日はぽかぽか工房の堀内さんに同席いただいている。以前にも旧福住幼稚園の跡地活用状況についてお話いただいたが、今般議会の方でこちらについて高原地域振興館条例というのを制定した。当初はこの幼稚園跡地をどなたか民間事業者に活用いただく中で、地元の活性化や子育てにも繋がらないかということを議論させていただいて、この協議会メンバーを中心に募集させていただいたところ、堀内さんが手を挙げられ、こうして選ばれたという経緯があった。だた、その後、幼稚園跡地の中に里道が走っていたり、古くからの施設ということもあって隣地の方との境界がはっきりしていなかったりといった事情がある中で、行政から堀内さんに運営主体を完全に移すということが法令上困難ということになった。この点堀内さんにはご迷惑をおかけして申し訳ない。ただ、この間福住小学校のコスモス分団の子どもたちだけでなく、地元の子どもたちも含めて過半数の子が週に一回通うような形でキッズサロンを運営いただいているし、活性化プロジェクト協議会さんと一緒になって、キッズサロンの子どもたち自身が中心になって運営する縁日を開催したりと大変すばらしい取り組みを進めて頂いている。ここからは行政が管理運営を引き継いで責任を持ち、その中でキッズサロン等の運営についてはパートナーとして堀内さんに一緒になってやっていただき、また、地域の皆様で活用されたいという方がいればどんどん使っていただけるような形で仕切り直しをしようということで議会にかけ、今般条例が可決されたというような状況になっている。一番の地元である上入田の総会にも行かせていただいて、区長様はじめ皆様にもご理解をいただいたところだ。本日はお忙しい中せっかく堀内さんにお越しいただいているので、その際にご説明した内容も含めてお話いただければと思う。

**堀内氏**

皆様こんばんは。ＮＰＯ法人誠優会理事長の堀内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。今市長よりお話があった通り、私たちもプロポーザルの際にこういったことがしたいとご提案させていただいたのが、障害福祉と地域の子どもたちへの福祉、地域のためになにか皆さんの気持ちを繋いでできることはないかということだった。いろいろなことがあってなかなか実現しなかった部分もあるが、その中で私たちがここでできることはなにかと考えたときに、地元からの要望が大変強かったのがキッズサロンだった。福住小学校から帰ってくる子ど

もたちが、家に帰ったらバラバラで友達と遊ぶこともできないし、習い事も遠方でなかなか難しい中、子どもたちが楽しく集い活動できる環境を作れないかと考え、まずはボランティアとしてキッズサロンができないかとはじめさせていただいた。始めてから１年９か月くらい経ったが、その中で１年生から６年生までみんなで仲良く、実際の兄弟のように勉強を教えあったり、仲良くいろんな遊びをしたり、みんなで一緒にイベントの合唱練習をしたり、楽しい笑顔の集う施設になっている。

今からその様子を写した映像をご覧いただきたい。また皆様方もたくさんご協力いただければと思う。どうぞご協力ください。

（キッズサロンの事業紹介動画を再生）

キッズサロンにはだいたい２０数名の子どもたちがいるが、小学校の半数くらいの子どもたちが通ってきてくれている。動画にもあったように、公立の幼稚園・保育園を退職された先生方がボランティアでお手伝いに来てくださったり、天理大学の学生がボランティアで来てくださったり、福住郷土活性化プロジェクト協議会や上入田をはじめとした地元の方々もイベントの際などにご協力をいただき、地元に根付いた活動ができているのではないかとうれしく思っている。これからについては、先ほど交通機関の問題等の市長のお話でも協働とありましたが、私たちの力だけで出来ないこともありますし、行政の力だけでできることでもありませんので、地元の方々との連携も必要だと思う。地元の方々、地域の団体の方々といろいろなアイデアを出し合いながら、このキッズサロンを福住に根付かせていける、みなさんと共に作り上げていけるような場所になっていけばいいと思っている。

一つ言い忘れていたが、動画に出ていた一番大きな女の子が小学校を卒業して中学校に入学し、うれしいことに来られる時はボランティアで来てくれるようになった。小さい子どもたちに宿題を教えたり、喧嘩する子たちの仲裁に入ってくれたり、とてもうれしく感じている。地元の活動を、キッズサロンに通った子どもたち自身で応援しようと戻ってきてくれる。こうしたことがこれからも続いて、何十年先に続いていくいい地域づくりの一助になれればと思う。どうぞ応援してください。よろしくお願いいたします。

**会　長**

ありがとうございます。地域の有志の皆さんと、大学・学生の皆さんのご協力、協力スポンサーなどのご支援を募られながら運営を進められていて、すごいことだなというように思っている。先般の縁日の際には、地元のご協力も得ながら子どもたち自身で企画・運営を行ったということで、こうした輪が広がっていけばいいと思う。当初の予定と変わったところもあるが、一番最初の選定プロセスでこの街づくり協議会を中心にどういうパートナーを選ぶかということを決めさせていただいて、一番良い提案として選ばせていただいた中で中核であった子育ての事業が今こうして実現している。また、もともとパートナーとなっていただくときに議決を取っているが、今こういった流れで再スタートを切るということも改めて議会に説明させて

いただいたところ。特定の事業者に何かしていただくということになれば常に公平中立にやっていかなければならないが、この子育て事業に関してはこれまでの流れと、既に子どもたちとの間に築かれている信頼関係や繋がりを大切にして事業を進められればと考えているので、街づくり協議会の皆様にもぜひお力添えをいただければと思う。

委　員

福住・山田の幼稚園・保育園で４名、仕事を退職した仲間でキッズサロンのお手伝いをしようということで時々行かせていただいている。子どもたちは元気に、水曜日の２時半以降は幼稚園を家庭のように、ただいまと言って帰ってくる。そんな家庭的な雰囲気の中で時には母親のようにもなりながら、おばちゃんのようにお世話をさせていただいている。宿題をしたり、楽しく遊んだり、１年生から６年生の縦の関係でお兄ちゃんやお姉ちゃんに教えてもらったり、とても楽しく過ごしていると思う。そこには堀内さんのいろいろな工夫もあり、時には絵を指導されたり、ドラムやギターなどの音楽を一緒にしたり、本当にいろいろな活動を考えてされているので、少しでもそのお手伝いができればと思っている。特に気になっているのが、学校から帰ってきてお迎えが来るまでの子どもたちのおやつやお茶の費用が、堀内さんにとって大変ではないかということ。子どもたちからは保険代しか頂いておらず、残りは堀内さんのご負担だと聞いている。子どもたちも喜んでいろいろな活動や楽しい遊びをしているので、私たちはボランティアとしていろいろお手伝いができればと思っている。

会　長

福住校区は人数の関係で学童も運営できていなかった中で、本来であれば公がもっと汗をかかなければならなかった部分ではないかという認識もしつつ、今回施設の方は改めて地域振興館として設定もしたので、今後どういう風に持続的にしていけばいいかという点はよく皆様ともご相談をしていきたいと思う。

委　員

写真や映像も見せてもらって、子どもたちが今一か所に集まって何かをするという機会が少なくなっているという現状があるなかで、こうした取組をしていただけるということは地域の子どもたちの輪ができるということだと思う。本当に素晴らしい実践をして頂いているというように思って見させていただいた。

会　長

ありがとうございます。ぜひまたご協力いただければと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。施設については、高原地域振興館ということで改めて地域の拠点になっていければと思う。事業で使う事務所スペースについては物の保管や利用する子どもたちの個人情報の管

理などで一部締切にしている部分もあるが、リズム室や廊下などのオープンスペースについては地域の皆さんにもどんどんと使っていただければと思う。子ども以外に向けた活用も進めていく中で多世代交流も展開していければと考えているので、ぜひよろしくお願いします。

**(2) 地域イベント等の進展について**

**〇長滝親子体験クラブ**

**大西委員**

資料でご紹介いただいているように、８月１１日に体験ツアーを実施しました。主催は長滝町復刻堂さんで、村としては後方支援のような形。今回は３回目の開催で、過去２回はＮＰＯなどのノウハウを持っているところがメインでやったが、ＮＰＯは３回も同じところではできないということで、今回は村と市の協力で開催したところ。参加者は電話と、ネットで受け付けたが、50 名の募集のところに 80 名とあっという間に集まり、これ以上は村では捌けないということで締め切らせていただいた。復刻堂さんによれば市内の小学校などに 5,000 枚チラシを配ったということで、それが功を奏したのだと思うが、人数的には充分良かったし非常にありがたい反応をもらった。イベント的には何もノウハウのない村の者が集まってやったものだが、人づてに竹とんぼ名人に来ていただいたり、年配の方が水鉄砲を作ったり、以前に作った石窯のピザ窯を使って手作りピザを作って召し上がっていただくなどした。やはり一番は自然の中で川遊びができるということで、放っておいても楽しそうに子どもたちが遊んでいたのが印象的だった。

また４回目をということで、村でも復刻堂さんでも企画したり働きかけていきたいなとは思う。なんといってもこどもたちが夏の暑い日に長滝で川遊びをしたという思い出が心のどこかに残って、楽しかった、面白かったという記憶に残るというのが村としては一番良かったと思う。ただ、費用の点が今回大人１人 1,000 円をもらいましたが、トイレを借りるだけで６万円くらいかかった。これはもう少し考えなければ来年の準備資金というのはほとんどなく、小西さんも身銭を切っていたような状況なので、トイレについては市の方にもご協力をお願いしていますがなかなか難しいというところだ。

**会　長**

ありがとうございます。滝道が見違えるような交流拠点になって、当初はＮＰＯさんとも連携してされていたのが完全に地元主導でどんどんと進んでいくようになってきているというところですが、いかがでしょうか。

**委　員**

地域力があってできていることなので、すごいなと思う。経費でかかる部分は、観光バスで長滝まで上がっていただく分とトイレだけですので、横に浄化施設のトイレをなんとか活用さ

せてもらえればとも思うが、機械等もある。厳しいとは思うが、工夫して何とか使わせてもらうことが出来たらいいと思っている。参加費を頂いてチラシもつくり、教育委員会の協力をいただいて学校に配布したことですぐに枠が埋まったのがうれしい結果だと思う。これは地域の方が取り組んでいただいた結果。竹細工も、市のボランティア協会の方でおもちゃの病院という取り組みをしている方にご協力を頂いて来ていただいて、まず地元の人に覚えて頂いて先生になっていただいて実施した。暑い時期にこうしたことができるのは長滝の良さだと思うし、地域の方々のおかげだと思う。

会　長

ありがとうございます。諸課題の部分については我々でも相談させて頂きつつ、一方こうした長滝の取組を福住・山田と共有する機会というのは意外とないのではないかと思うが、この街づくり協議会の中でも広がってきたのではないか。例年は氷まつりと重なっていたが、今回は日をずらしていただいたのでうまく調整ができたのかと思う。こうした長滝の取組も福住全体で盛り上げていければと思うので、またどうぞよろしくお願いいたします。

〇Narative2018 「二階堂家物語」

会　長

つづいて長滝関連で９月の末の奈良国際映画祭について。昨年は天理市が舞台になった「二階堂家物語」という映画で、主人公の二階堂家が住んでいる家として長滝の皆さんにご協力をいただき撮影した。それにとどまらずこの福住公民館でも炊き出しをしていただき、地域のみなさんに相当のお力添えを頂きながら進めた。こちらについては市本委員の方からご説明をいただければと思う。

市本委員

天理で映画を撮影されるとなって、まずアイダ監督が来られた時にロケハンのお手伝いをさせていただいた。なんとか高原地域で撮っていただけたらという思いで、山田の方々には大変ご迷惑をおかけした。はじめは稲のシーンがいいということだったが、11 月まで稲を刈らずに置いておいてくれと言われて、それはどうしても無理だということでいろいろな形でお願いしていって、その中で長滝に私の幼稚園の時の先生がいらっしゃったご縁で長滝のお宅を撮影の場としてご提供頂くことができた。

撮影班に来ていただいて天理で撮影できたということを皆さん喜んでいただいて本当に良かったと思う。市民会館での試写会の中での市長の挨拶で、アイダ監督の映画というより天理市民の映画だという風に言っていただいて、本当にそれがすべてだなというように思った。オール天理と常々言ってらっしゃるが、それが形になってこういう映画が撮れたのかなと思う。来年１月 25 日からの映画公開をぜひ見に行っていただければ。

会　長

ありがとうございます。奈良国際映画祭と地元上映会の機会には、スタッフでご参加いただいたみなさんにしか見て頂けなかったが、来年の１月に公開になり、市の方でもロケ地マップを作っている。これから上映と込みで、実際のロケ地を観光で行ってみたいという流れに繋いで行けたらなあという風に思っている。幅広く全国公開され、また海外でも公開される形になっていくかと思う。本当に皆様がよくご存知の風景がそのまま映画になっていて、天理大学も撮影場所ということで雅楽でもご協力をいただいている。ぜひ学祭等でも広めて頂ければと思う。

〇蛍のさと de 稲刈り体験

会　長

次は蛍のさと de 稲刈り体験ということで、引き続いて市本委員からご紹介をお願いします。

市本委員

山田で空き家を貸していただいており、目の前がとてもきれいなのでそこで田植え・稲刈りができないかというアイデアから始まって、それならしようとすぐに受け入れて頂いて、募集からどうしようかと思いながらやってきたが、年々数も増えて 50 人くらいの方にお越しいただけるような形になってきた。地域の方々は手植えをどうするかから鎌で刈るのはどうするか、その後のはさかけの方法までご指導くださった。米は食べるけれどもどうやって実っているのか知らなかったのでよかったという親子連れや、風景のきれいな地域に来させてもらってよかったと、大阪や京都など遠方の方もいらっしゃっているので、本当にありがたいことだと思っている。

また地元の方々がカカシを作ってくれている。自分の植えた稲の成長と共にそれを見に来るというのもまた一つ楽しみだと聞いている。この取り組みの映像を YouTube で流そうと仰っていただいている方もいらっしゃるので、広く拡散していけたらなと思っている。

会　長

ありがとうございます。いろいろなところで農業と多世代交流、教育などと組み合わせた取組が広まってきているが、特に山田では熱心にやっていただいている。下山田の皆様も営農組合の横の連携でご貢献をいただいているので、いろいろな取組で共有できればと思う。よろしくお願い致します。

〇氷まつり

会　長

新規イベントの進展という点では、氷まつりもさまざまな新しい取組を展開頂いているとこ

ろ。これについては小野原委員からお願いいたします。

**小野原委員**

いつもお世話になっております。今回７月 16 日の氷まつりで氷を搬出して、その氷を持ってコフフンに行こうという企画をした。皆様のご協力とご理解を得て氷まつりが 20 年目 20 回を迎えた記念として実施したもので、16 日に搬出した氷を大八車に乗せて、７月 22 日に豊田から駅前まで行った。この夏は暑すぎて、その日もいつもなら人も多いはずの駅前が人もまばらだったが、来てもらった方に氷を見て、触ってもらって、少しの涼を味わってもらえたらなと。また隣でかき氷も売らせていただいた。

また 20 日のぽかぽか工房さんの夕涼み会にも参加させていただいた。それからイベントとして第２回の氷室のふるさと体験ツアーも８月 26 日に実施した。１回目は人数が思ったより伸びなかったが、２回目はおかげさまで定員 40 名いっぱいのご参加をいただいた。
遠方からもお越し頂き、また機会があったら来たいという声も聞いている。福住も別所から下山田まで巡って、これからも少しでも福住の良さをアピールできればと考えている。

氷室は現在９月から茅の葺き替え工事をしていて、職人さんの研修の都合で間が空くものの、来年の２月の氷まつりの氷の納入までにはきれいな茅葺ができると思う。また近くを通られたら茅の美しさを見て頂ければ。

**事務局**

氷室の修復については、今は下の方を足元から作業していただいるが、それをどんどんと上の方まで進めて頂いて、最終的には屋根全体がきれいになるという形。

**会　長**

きれいな復元氷室のいい形で氷まつりを迎えられたらと思うので、皆様またお力添えをよろしくお願い致します。駅前の運営委員会の方も月１回程度集まっているが、こうした福住の取組が駅に繋がったということで、もしご意見等ございましたらどうぞ。

**委　員**

駅前がうまく成功してあの場所にたくさんの人が集まって注目を浴びているが、それが広がっていくというのが当初からの課題。駅前に来ていただいた方が、高原などの市内各地に足を延ばしていただくということに発展させていかなければならない。そのためには高原からも出て来ていただいて、天理市内にはこういうものがあるんだよというのをうまくコフフンを使って情報発信していただいて、コフフンに来ていただいた方がそれを見てこちらに足を延ばすという風に展開していければいいと思う。そういう意味では氷を運んでいただくというのはいいイベントだったのではないかと思う。

会　長

ありがとうございます。コフフンに関しては高原以外にも南部でもまちづくり協議会との連携があり、柳本に黒塚古墳という三角縁神獣鏡がたくさん出た古墳があるが、そこで柳灯会という4,000灯くらいの灯篭を並べるイベントがある。それをもっと市内の方に知っていただこうということで、古墳がモチーフになっているコフフンにも同じランタンを200基くらい並べて、これは何かなと見て頂いた方に、実は柳本で今度本当の古墳でやるんですよという形で紹介をしていただき、そんなイベントがあるなら行ってみようというようなＰＲの場所としても使っていただいている事例がある。

高原の取組を市街の方でもご存じない方もあるかなと思うので、今後ともどんどん打ち出していければと思うのでよろしくお願い致します。

〇移住フェア・セミナーについて

農泊などにもつながってきますが、続いては高原地区から移住フェアに参加させていただいた件について、事務局から説明をお願いします。

事務局

移住促進のイベントということで、１つは７月の３日にならまちの町屋のオープンスペースを貸し切り、座談会形式で開催したもの。開催日は平日だが、これは小さなこどものいる母親がこどもを幼稚園などに預けられた後に、高原の良さ、自然の豊かなところでの子育ての良さをアピールできればという意図でさせていただいた。実際には親子連れを中心に13名ご参加いただき、先輩移住者さんとのお話の中でＰＴＡ活動など実際の学校生活等についてご質問されるなどした。これに対しては福住ならではの学校の先生方と保護者の方々との距離の近さをご紹介いただくなど、活発な意見交換がなされた。また、もう一つ７月28日に大阪の天満橋で行われた「おいでや！田舎暮らしフェア」という移住フェアに出展した。こちらは西日本で最大級のフェアで、150を超える自治体や移住促進団体が出展した。８組の方に市ブースにお越しいただき個別相談をさせていただいた。はっきり天理市を目指してこられた方というのは２組で、それ以外の方についてはなんとなく探しながら歩いてこられた方だった。こうした、はっきりとした対象はないけれど探しているという方に、大きなフェアを通じてお声かけをさせていただき、先述の深く地域を知っていただくセミナーなどでそこから先も結び付けていく形で今後も進めていければと考えている。

会　長

ありがとうございます。その場で気づいた地域の課題等はありますか。

事務局

課題としては、既にこの協議会でも何回か出ていることではあるが、やはり実際の物件をご覧になりたいというお声があった。実際の生活をイメージされるのにまずお家を考慮したいという方がかなりいらっしゃるので、その辺りが課題であると思われる。

○空き家対策事業

会　長

これについては、多少順番が前後しますが、内容が近いので空き家対策事業に進ませていただければと思う。事務局からご説明よろしくおねがいします。

事務局

現在は少子高齢化という課題がある中で特認校制度等を利用して対策を取っているが、根本的な解決となるとやはり移住・定住ということだと思っている。そのため移住フェア等にも出展させていただいているが、なかなか芽は出そろわないというところ。

そのような中で天理市の空き家対策としては、天理市の空き家対策の方針を決定する協議会を既に立ち上げており、そちらで全体の大きな方針を決めさせていただいて、空き家バンクを昨年度末に立ち上げた。これに空き家所有者の方と、空き家が欲しいという希望者の方の双方がこれに登録していただいて、マッチングをして進めていく。現在天理市の空き家バンクには、所有者としては３名、うち１名は成約済みとなっている。その他利用者としては１０件余りの方が、所有者としては８件の方がお問い合わせをくださっている。また、８月 26 日に相談会を開催させていただき、そこに３名の方が申し込まれ２名の方が相談に来られた。それらの方については順次今後についてのお話を進めている。こういった活動は今後も広げていきたいと考えており、これができてくると大阪や東京にご紹介に行っても、こういう空き家物件がありますとご紹介をさせていただけるようになる。

なかなか空き家があっても利用するところまで行くのは難しいということもある。村の人目が気になるといったように所有者の方が躊躇われるなど、物件があっても出てこないことがある。今後バンクがいい形で普及していけばそういった部分も変わってくるかと思う。すでに調査等でもご協力を頂いているが、また区長会の皆様がたにもご協力いただき、空き家対策を進めていきたいと思っているので、どうぞよろしくお願いいたします。

会　長

ありがとうございます。フェアなどではもともと天理市を目指していない、何気なく歩いていた方でも立ち止まってくださったという感触を得られた一方、その際に物件を照会できなければ結局釣り逃す魚になってしまうという部分もある。私自身も今移住ビギナーで実体験中だが、私の前にも６件くらい見に来られていたようだ。来られる方にも不安があるし、受け入れる地元のご近所さんにも不安があるというのでなかなかマッチングがうまくいかなかった部

分があったというのも聞いている。そういったことには実例を積み重ねていく中で、地元の皆さんもどうぞという機運になってもらい、来られる方にもどういうところに気を付けて頂きたいかという部分のノウハウの蓄積をさせていただければと思う。また、本日ＰＴＡの会長さんとお話させていただいた中で、外から来る人の流れができれば、今はいったん地元を離れて外に出ていらっしゃるという方がまた戻って来やすくなるような雰囲気ができるのではないかというお声を頂き、そういう視点もあるのかと思わせていただいた。兎にも角にも、いろいろな案件がないとダメだというところかと思う。子どもを増やすためには子育て世代に住んでいただくのが一番で、そうなれば高齢化率も若干下がりうるということで、基本的には好循環につながるのではないかと思う。

以前に空き家バンクの説明会をさせていただいた時には、区長さんを通じてご案内というのは他の人の土地を勝手にどうこうすることになるのでなかなかというお話を頂いたのですが、ここは可能性があると思うという情報を我々の方にいただければ、我々の方から納税関係の通知書等と一緒にこんな制度がありますがどうですかとご案内することもできる。そこはきちんと守秘義務は守るので、気になる物件やここはどうだろうというものがあればお声を寄せていただければ。やはり流れがあるときにしっかりすることが大切かと思う。

大阪の中心まで車でスッと行くことができて、市役所までは20～25分だが、ネットも光回線で携帯等も支障なく使える。改めて移住するにはインフラが整っているなと感じている。改装するときも下水道が繋がっているんですかと驚かれた。外の方からすると当然浄化槽だろうというところを、相当街のレベルに近いところまで整っている。ぜひ自信を高めて頂きたい。次回の空き家の相談会の予定は？

**事務局**

年度内にもう一度と考えている。ＮＰＯがするものがあるので広報させていただくが、大体例年２月ぐらいに実施している。

**会　長**

また相談会もさせていただくということで、私もこんな改装やったんですというのを自分でやれば、誰に断る必要もなく好きなように使えるなと思ってやっている。ぜひお力添えを頂ければと思う。何かご意見ございましたらどうぞ。

**水口氏**

私の村へ市長が来ていただき、市長ご自身いろいろとご苦労もされたと思うが、こうして来ていただけたということで村にも光が差した。かといって市長ばかりにまかせっきりにしても一人では何もできない。村を挙げてみんなで立ち上がらないといけない。市長だけにこれやってあれやってと言ってもできるものではないと思う。

会　長

家の中ではもう少し大人しくならないかと思う娘だが、子どもの声が聞こえるだけで喜んで頂けているようなところ。もちろん個々の事情や個々の事例はあると思うが、各大字ごとにそういった方が入って来られるようになったとか、あるいは小規模特認校制度でお孫さんが来るようになったとか、お子さんが以前よりもお孫さんを連れて地元の行事に参加するようになったとか、いろいろな切り口での積み重ねが大事だと思うので、またどうぞよろしくお願い致します。

○農泊推進事業について

会　長

時間が大分過ぎてしまっているが、続いて農泊推進対策事業についてということで今年度県と国との連携で進めている。区長会の方へもご説明の際にご迷惑をおかけしたところだが、改めて農林課の方から説明をお願いします。

事務局

本来ならば前嶋様が来られる予定だったが、本日は都合によりご欠席のため代わって農林課からご説明する。前回３月の協議会で来年度、つまり今年度と査来年度の交付金の獲得に向けて応募させていただきますということをお話させていただき、参加させていただいた。その後実際に６月末に申請をさせていただきまして、やっと２週間前に決定をしたという形になっている。決定にあたりましては区長会の皆様にご意見・ご時間をいただきまして進めさせて頂いた。ありがとうございます。

資料にある「農泊推進事業資料」からかいつまんでご説明する。目的については皆様本協議会でご協議いただいているとおり、最終的にはいろいろな手段を用いて人口維持のための若者の定住・外からの移住を目標に観光事業で地域の魅力を発信する取組から始めて、宿泊・飲食店・体験型プログラムをセットにして地域に経済効果のある街づくり型観光を提案し、交流人口の増加と定住促進が進む持続性のある地域づくりを目指したいという思いで進んでいる。

事業内容・計画についても、植物学・郷土史・料理研究家等の指導を受けて、地域の魅力を掘り下げ体験プログラムを案内できるガイドを養成し農村体験プログラムとして開発していこうとしている。この体験プログラムと併せて、景観保全活動、受け入れ体制づくり、特産品づくり、ボスコヴィラを含む民間宿泊施設、地域内飲食店ということで、農業体験・観光をセットにして提案していく形で進めていきたいと考えている。すぐに旅行客を受け入れるというのはなかなか難しいところもあるため、現在構成員の中に入っていただいている奈良県立大学の学生さまと天理大学の学生さまを研修学生として受け入れ、実際の現場課題等を掘り下げて、宿泊等の環境整備に繋げていこうと考えている。

実際に進めていく事業については、事務局である協議会の体制づくりのほか、滞在受け入れ

環境整備があるが、これは農泊を進める上で実際にできるかどうかをスタッフも雇いながら年間を通じて調査をしていくというものだ。耕作放棄地の利活用、特産品の開発、地域固有の伝統的な文化遺産や観光資源の継承と活用という形でそれぞれ資料のとおり今年度進めて参りたいと考えている。続いて広域連携と観光PRについて。こちらは大和高原マップづくりということで、福住だけでなく行政界を超えて奈良の柳生方面等とも連携を取りながら進めていきたい。実際に各事業ある中で前嶋様方だけでは進めていくことが困難であるため、人材活用事業という形でそれぞれの事業の取組に合わせた専門家を雇い、お願いしながら進めていきたいと考えている。実施にあたり前嶋様からご協力の依頼ないしはお願い等があることもあるかと思いますが、温かく迎え入れて頂ければと思います。

会　長

こちらは農泊という形で来ていただく機会の創出というように認識をしている。

何か皆様方の方からご質問・ご意見、どういった事業をするのかもう少し教えてほしいだとか、そういったことがあればお伺いをしたいと思うが、いかがか。

委　員

前嶋さんを通じて区長会にもいろいろと説明を頂き、地域活性化ということで前に進めていってもらえればと思っている。ソフト面を中心にどのように進めていくかというのはなかなか大変だとは思うが、何とか工夫して地域のために活用していただければと思う。

会　長

ありがとうございます。以前にも大学生の皆さんが宿泊体験をしていただいたかと思うが、これに関してご意見やご助言等いただければ。

委　員

以前天理大学でも通学合宿で「もよの家」に宿泊させて頂いた。結局単発のものになってしまったが、学生自身もそう何回も来ることが出来なかったということがあるので、季節ごとの違いを活かして、夏には来たことがあるが冬にはないとか、そういった方にリピーターとして来ていただく方策を考えていくのも大切なのではないか。

会　長

体験をしていただいた時に、それが単発になってしまってはいけないというのは非常に重要なポイントだと思う。繰り返し継続的に受け皿になれる体制というのが地元の方で整っていないと、どれだけ素敵な地域資源があってもなかなかそれを農泊に結び付けていくというのは大変だ。協力すると仰っていただいていても、運営の中核になれるようなものを募集したり、あ

るいはそれを実際に泊まっていただくところに結び付けていったり、どこで食事をしていただくかというようなことをコーディネートする役がいないと、１回・２回は来ていただけても農泊としては進んでいかないのではないかと思う。そういった受け皿作りを今回頑張っていこうという認識ですので、ぜひまたこの結果を次回の協議会で進捗報告を頂ければと思う。地域の皆様もご協力をよろしくお願い致します。

最後にもう一点重要なポイントとして、ならコープによる移動販売事業について、まず説明をお願いします。

事務局

ならコープによる移動販売事業について、資料写真でご提示させていただいているのが南部地区、朝和校区と柳本校区の移動販売の様子になる。先行してならコープさんの移動販売が実施されており、こちらの方で非常に好調な売れ行きを達成されている。このたび新しく販売車両を追加されるにあたり、次は福住校区で検討したいというコープさんからのご提案もあり、現在販売エリアの拡張に向けて校区区長会長様はじめ校区の方とお話し合いをしていただいている。

委　員

よその校区でこういう取組があってみなさん喜んでいる、福住はどうですかと総合政策課の方から打診をいただいて、これはいい話だと我々区長会でもこれを進めていこうという話になった。市長にも背中を押していただいたが、私たち福住では６５歳以上が４５％を超えている。ほとんど２人に１人が６５歳以上であり、限界集落に近づいている。先ほどお話にもあったが、免許を返納してしまって運転できない方が増えれば買い物にも不自由するというのは、もう先が見えている。こういう話を今進めさせて頂く中で、一応区長会で各垣内に聞いて頂きましたが、想定以上の人数が集まっている。となるとそれをいかに、どこで、何か所で実施するかという話になり、一応８か所でということでならコープの方で進めて頂いているが、今その希望者の人数を集計した段階で、窓口が区長会ということもあり、区長会でならコープと相談して場所と人数を確認して調整中というところだ。

会　長

ありがとうございます。この移動販売というのは、まず南部まちづくり協議会で去年の冬からスタートした。先ほどの議題の中で公共交通の話があったが、公共交通というときに一番大きなポイントの一つとして通院・通学、そして買い物弱者対応というものが入ってくる。その特効薬とまでは行かなくても、若干でも緩和できる策ということで進めている。今、朝和・柳本・式上の地区も地元にお店がない。高原地区に比べれば、ビックエクストラやハッスルなどの店舗が近い印象だが、歩いて行ける距離ではない。そこでこれを導入致したところ、非常に

ご好評をいただいている。また高原地区では既にコープを頼んでおられるご家庭も多いかと思うが、この事業のミソは公民館や町の集会所といった場所をコープに提供して、代わりにコープの会員以外の方でも、道の安全などを気にすることなくゆっくり買い物ができるということ。これはぜひ広めて頂きたいのだが、コープに申し込んでいるとか、コープに入っていないといったことに関係なく、地域の皆さんが直接自分で選んで近所で買えるという形になる。南部の式上も売り上げがよく、すぐに販売所が増えた。コープさんも商売なので、せっかく始まっても残念ながら売れないとなれば、すぐにやめるといったことはなくてもやめようかという話になっていってしまう。一方、売れて品物が充実してくるということになれば、今調整が大変だという販売箇所についても、こちらに行ってみようか、あちらにも行ってみようかという話にもなるかと思う。

これについては男性もそうだが、女性の口コミが極めて大事な部分もある。委員の皆様にもお力添えをよろしくおねがいいたします。

**委　員**

区長会でこれをとりまとめるということでみなさんにとりまとめてもった。それを持ち寄って、これからまた進展させていくということで市とも詰めていければと思う。

**会　長**

今まで南部でやっているところなどご覧になられたことはあるでしょうか。

**事務局**

区長会のみなさんには写真でご覧いただいている。

**会　長**

特に南檜垣などでは柳本校区の森田会長が率先して勧めて頂いていており、町の中でも知らないままの状態が継続しているところと、区長さんが相当頻繁に回覧などで周知していただくところで、南部の中でもよく売れる所・そうではない所というのがある。お忙しいとは思うが、もしよければその辺りの取組の様子を見て頂ければわかりやすいので、またそういったこともお願いできればと思う。

**事務局**

南部地区は水曜日と金曜日に移動販売を実施しているので、もしよければお気軽にお声かけいただければ。また、福住に関して言えば、区長会で各区長全員に移動販売のお話をさせていただいているので、周知はかなりできているかと思う。あとは実際に買い物に来ていただいて、どれだけいいものか知っていただくということから始めさせていただきたいと思う。

会　長

はい、またそれは相談させていただければと思うので、よろしくお願いします。

若干時間は超過したが、予定しておりました議題は以上になる。せっかくの機会なので、皆様方から何かご意見がございましたらお伺いしたいと思うがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局

その他について、高原地区のまちづくり協議会では基本構想というものを策定し、氷室のツアーなど個別の事業を県との連携のもと動かしているところ。これについてこのたび基本計画というものを策定しなければならないという形になり、現在動いている事業、これから動かす事業というのをまとめて今年度中に作っていかなければなりません。かなり厳しいスケジュールでさせていただくことになるが、今年度中に本協議会を最低一回、場合によってはもう一回と開かせていただくかもしれませんので、委員の皆様にはご協力をお願いいたします。現在動いている事業については皆様がよくご存じかと思うので、私共が作らせていただいた計画案についてこんなものもあるといったご意見がございましたら情報を頂ければと存じます。

会　長

ですから、我々の方で原案を作ってみなさんに見て頂いて、特に問題がなければまた承認いただくということですね。ではまたそういった形で進めさせて頂きたいと思うので、今後もどうぞよろしくお願いいたします。

４．閉会　－２０:１０－